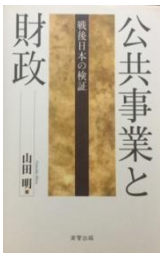
懐かしい写真で振り返る(続)

全国的な「短大改革」と教養部再編の動きのなか、2 つの短大を閉じて名古屋市立大と統合することになる。大学再編の渦に振り回されながら、名古屋市立大人文社会学部、大学院人間文化研究科で定年まで研究教育、学部・大学院の運営面で苦労しながら奮闘努力した。

新築された人文社会学部棟 6 階が私の研究室。研究室前のベランダから、旧制八高ゆかりの緑豊かな古墳を見ることができた。目が疲れると、ベランダから古墳や大学周辺、名駅界わいを眺めていた。ここは思い出が詰まった私の「居場所」だった。



初めて単著を刊行したのが、写真の『公共事業と財政』2003 年、高菅出版だ。市短時代から書いてきた論文を一冊の著書としてまとめようと悪戦苦闘した。先延ばしも考えたが、なんとか出版でき良かった。そのあと学部長・研究科長になり、単著の出版などできなかったからだ。

その下の写真は 2 年間の学部長・研究科長を退任して、卒業生と現役生、さらに先輩・同僚の皆さんも参加してくれた集い。こんなに嬉しいときはなく、疲れも吹っ飛んだ。今でも、こんな「サプライズ」を企画してくれた卒業生らに感謝している。この写真には、私の退職 3 ヶ月後に亡くなった同僚、石川洋明さんの姿も見える。何回もレポートしたが、退職前後の彼との「つきあい」は、忘れがたいものがある。

学部長などをやりながら、中部国際空港や愛知万博の取材に積極的に対応してきた。研究室で行った東海テレビなどのインタビューが、夕方のニュースで伝えられた。ときには写真のように、CBC の日曜朝の番組で「辛口コメンテーター」も。たった 1 回の出番ではあったが。私の出演後、どうしたわけか(私のせいではないと思うが)、番組は終了してしまった。

中部国際空港関連開発で、原告・住民側の証人として名古屋地裁で 40 数分にわたって証言したことも忘れられない。空港と万博について、調査研究し発信してきたことが、いま大阪で役立っている。人生は不思議なものだ。

2014 年 2 月 22 日 2 時から、人文社会学部棟 2 階 201 教室で最終講義行った。寒風吹きつけるなか、大勢の人に参加してもらった。わが人生で最高の日であった。愚痴聞き地蔵さんに、愚痴を聞いてもらいながらの教員生活であった。さあ、明日はまた歳を一つ重ねることに。

(2022 年 9 月 16 日)